

平成20年12月26日

もりどうしん ダム守同心情報連絡票(第33号)

この情報連絡票は、灰塚ダムのダム守同心の方々並びに関係者の皆様に三次河川国道事務所灰塚ダム管理支所から灰塚ダム及びハイヅカ湖に関する情報をお届けするものです。

1. 「第4回ダム守同心会議」を開催しました。



12月18日(木)に、三次市吉舎町の知和ウェットランドにて「第4回ダム守同心会議」を開催しました。ダム守同心メンバーや各関係機関から28名の皆さまにご出席頂きました。

会議では、ダム守同心活動状況の報告や事例紹介、各種情報提供、今後の活動についての意見交換を行いました。これらにより、現在のハイヅカ湖とその周

辺が抱える課題を参加者の間で共有することができたのではないかと思います。

不法投棄の防止や防災・防犯、公共施設の適切な管理、外来魚の再放流の禁止といった環境面の取り組みなど、ダム守同心活動をより実りのあるものにするためには、より一層ダム守同心メンバー等の地域の皆さまや活動にご参画頂いている各関係機関、ダム管理者の連携を密にする必要があることをあらためて確認しました。

《主な議事と内容》

【1. ダム守同心実施要領の改正について】

要領の別表「活動に参加頂く関係機関一覧表」に掲げる機関名を以下の通り改正を事務局より提案し、会議の参加者から承認を頂きました。

改正前「備北地区消防広域行政組合 消防本部」

→ 改正後「備北地区消防組合 消防本部」

【2. 平成20年のダム守同心活動報告、事例紹介について】

今年の7月8日に実施した「ぐるっとハイヅカ現地調査（以下「現地調査」と略）の報告やダム守同心メンバーからの情報提供事例の紹介を行いました。

「現地調査」については、当日の参加者から寄せられたアンケート結果を基に、ハイヅカ湖周辺におけるゴミの不法投棄の特徴や今後の取組み、防犯上・防災上の問題点などを報告しました。

ダム守同心メンバーからの情報提供事例については、各々の内容（不法投棄・外来魚の再放流・公共施設に関するものなど12件）と対応状況について、不法投棄の状況マップなどを交えて紹介しました。

【3. 主な情報提供内容】

●不法投棄については、目撃したら情報提供（車のナンバー・特徴等些細なものでも）をお願いしたい。投棄した者が判明すれば検挙していきたいと考えている。

また、不法投棄・落書きなどは放置せずに対応することが未然防止につながっていく。

●灰塚ダムの周辺は死角となる場所、車などの乗り入れが容易なところが多く見受けられる。そういった箇所の閉鎖、物理的に進入ができないようにするという措置が必要ではないかと考える。

今後も、この自然豊かで環境の良いハイヅカ湖周辺が犯罪の温床にならないよう、日々のパトロールを行っていく。目の行き届かないところもあるかと思うので、情報提供等皆さまのご協力をお願いしたい。

●灰塚ダム周辺の駐車場等ではタバコの吸殻が目につく。吸殻入れの設置もよいのではないかと考える。12月17日現在の三良坂町・吉舎町両町内の平成20年の火災は8件発生（うち3件はタバコが原因と思われる）。

同じく12月17日現在の備北消防管内の火災発生件数は82件（昨年より1件減少）、救急が3,631件（昨年より34件減少）、救助の事案は66件あり出動している（昨年より15件増加）。

●広島県は「アダプト制度」により、広島県が管理する道路・河川などで地域の方や団体が清掃や緑化などを行っていく活動を支援していく仕組みがある（道路→「マイロードシステム」、河川→「ラブリバー制度」）。地域の方々に円滑な道路・河川等の維持管理にご協力いただいている。

また、広島県が委託した「NPO法人ひろしまアダプト」によるアダプト支援事業がある。来年度の詳細は未定であるが奨励金を交付し、活動経費の一部を支援するものである。ダム守同心の方々の活動を広島県としても支援していきたいと考えている。

●奥まった死角となる道路余裕地については閉鎖等の措置をとり、不法投棄についてはすぐに回収するのではなく警察機関と協力しながら、「捜査中」の立て看板を設置し、警告・監視を行うという取組みを行っている。

●不法投棄について、今までは通りかかった時にスチール缶・ビニール・ペットボトルなどは拾って帰って、自分で処理していた。事例紹介時にもあったように犯罪に関係のものもあるということで、不法投棄があったらダム管理支所の方へ連絡したいと思う。

●7月8日の現地調査時に景観を考える箇所として「三良坂町大谷」の白いガードレールについてのお話をさせていただいた。今このガードレールについてワークショップを行っていて、高校等の美術部員に足を運んでもらいガードレールのデザインを考えてもらっている。この活動を通じてささやかながら自然の美しさを守らなければならないという気持ちになってもらえばと考えている。

●のぞみが丘では環境整備で空缶拾いなどを行っている。常にきれいにしておくことが大切だと考えている。引き続き協力していきたい。

●安田自治振興会では(ハイヅカ湖の)上流端として里山を守る活動の一環として、希少動植物の保護活動を行っている。

●知和堰堤を一度満水にしてもらったら、環境がいい方向で変化して、メリットが多いのでは？

●吉舎町小社の県道梶田三良坂線の対岸の市道(加村国兼線)のハイヅカ湖側の法面ではよくゴミが投棄されている。地元のウォーキングをされている方が目についたゴミを回収していると聞いている。

●周辺の景観を守ろうということで、麦・ソバなどの植物の育成を行っている。ダムの上流端においても、周辺の景観を整備し保全するように心がけることが、不法投棄などの防止につながるのではないかと。

●閉鎖して人が入らないようにすることで不法投棄などを防止しようとするよりも、人目がないということがそういった行為につながるということで、いろいろな人に入ってもらうことで人目を増やし、自然環境が守られていくという積極的な施策が必要と考える。

ゴミの不法投棄はすぐ回収するのではなく、看板等をたてて強い警告を発することも必要。

●ハイヅカ湖周辺のみならず三良坂支所管内でもゴミの投棄の問題は頭を悩めているところであるが、関係機関と連携して積極的に対応していく。回収しても同じ箇所にすぐに投棄されるケース、指定ごみ袋に入れて橋の上から投棄している残念なケースも見受けられる。

●NPO三次科学技術教育協会は子供たちに科学・理科教育を進めていく取り組みを行っている。ハイヅカ湖畔の森の近くに三良坂小学校にあった展望台を移転した。この自然環境豊かで光源の少ないハイヅカ湖周辺は星の観察・写真撮影には最適の環境である。ライトアップを楽しむ人にとっても星空を楽しむ人にとっても、折り合いがつかうような自然環境が豊かになればよいと考えている。

●吉舎支所の職員は18名である。仕事に出る前等にパトロール等を行っている。情報を提供したり・していただいたりと双方向のやりとりをお願いできたらと考えている。

●三次市水道局はダム下流域の利水者として、地域の皆さまの取組みにより水質事故等もなく安心して安全な水を供給させていただいている。今年夏の渇水時も灰塚ダムの関係で取水制限もなく安定した水を供給できた。

●江の川上流域は今年の6月以降非常に降雨が少ない状況が続いた。庄原市の水道は西城川から取水しているが、灰塚ダムの利水に参加していなければ取水制限のおそれがあった。なお、広島県が事業主体となっている庄原ダム(H24年度完成予定)に庄原市も水道用水の安定給水のために参画している。

【4. 主な意見交換・質疑内容】

●冬場でありながらダム下流に泡が浮いて流れているが、汚れているのではないか？

→ この白い泡は洗剤や有害物質ではなく、有機質が分解してできる

「多糖質」と呼ばれるデンプンなどと同様のもので無害です。今年の夏季における高温少雨により植物プランクトンが多く発生し、ダムから放流する際にかき混ぜられて白い泡状になったものです。これは一般的にいわれていることですが、ダムを供用すると今まで水に浸かっていたところ
が、急に水に浸かることになるので数年間は溶出等が生じ富栄養な状況となりやすくなります。具体的な予測は難しいですが年数が経過すると水質的には安定してくると思われれます。灰塚ダム管理支所としては水質保全対策を推進し、よりよい水質になるよう引き続き努力していきます。

●いつまで経っても下流の水位が一緒である。これはダムの本来の目的なのであろうが、自然界では水位の変動がつきものである。水位が一緒ということは下流にとってはよくないことである。

→ 灰塚ダムには環境用水放流設備というフラッシュ放流や中小出水の再現等を行う設備を備えています。管理に移行してここ2年で出水がないこともひとつの原因として挙げられますが、ご指摘いただきました点は認識しているところであり、今後の低水管理の課題であると考えています。

●三次市は受益者としてダム下流の三次市民に関心を持ってもらい水源地をきれいにしようという認識を持つような啓蒙活動を将来的に行っていくことが必要ではないか？

→ ご指摘の通りと考えています。他の市民の方からも同じご意見をいただいているところでもあります。今後、取り組んでいく必要があると考えます。

「

●ダムというものを見たとき、水がきれいなのが一番重要だと考える。雨が降らなかった今年の夏の状況を見るとドロドロしている。噴水や曝気では追いつかないのではないかと？

→今後気象の変動がどうなるのかは予測がつかないところがありますが、今年のような異常ともいえる状況下でもよい管理ができるように努めたいと考えています。

●今年の夏のように貯水率が低下し、貯水池から水が減ると、土砂崩れが起こるのではないかと？

→今年のように貯水池の水位変動があると、湖側からの巡視を強化し監視を行います。こういうときに降雨があると、草に覆われていない箇所は表面が洗い流されやすくなるということはありませんが、大規模な地すべり等の危険はないと思われます。

●灰塚ダムには国道沿いに「灰塚ダム」入口を示す標識がない。他のダムではあるのを見たことがあるが・・・。

→灰塚ダムに訪れた人から「地図を見ても分からない」「カーナビゲーションを見ても出てこない」という指摘を受けることがあります。外から訪れる人に分かりやすい、来やすくすることは課題と考えています。

●灰塚ダム管理区域上流端の河床整備の展望は？様々な形態の利用者に喜んでもらえるような整備をお願いしたい。

→お話しいただいたご意見は、今後の管理の参考とさせていただきたいと考えます。

【5. 平成 21 年の取組み】

今年度の活動報告等を踏まえ、平成 21 年の取組みについて以下の通り決定しました。

1. 「ぐるっとハイヅカ現地調査」の定例化（テーマ別に年 3 回程度実施）

2. 第 5 回ダム守同心会議の開催

その他、多くの貴重な意見、情報をいただきました。

その場で回答できなかったものについても、今後検討等行い管理に反映していきたいと思っておりますので、引き続きよろしく申し上げます。

2. 灰塚ダム諸量

本日9:00現在のハイヅカ湖への流入水量は毎秒1.36トン、ダムから下流へ毎秒1.5トンを放流しています。

現在、ダムに貯留している水量は60.0%となっております。

3. 本号の最後に

今年も残すところ数日となりました。

今年1年を振り返ってみますと、生まれてこの方、今年ほど雨を望んだ年はありませんでした。

おかげさまで、関係者の皆様方のご協力のもと、必要な水量は確保でき、灰塚ダムの機能が十分発揮できたものと思います。

又、今後温暖化が懸念される中で、少雨高温時の水量と水質の管理をどのようにしていくのかについても考え、対応していかななくてはならないと感じる一年でもありました。

昨年の漢字は「偽」でしたが、今年の漢字が「変」と発表されました。

よくも悪くも変化の多かった1年を象徴する漢字とのことでしたが、どちらかといえば悪い方がクローズアップされた年であったように感じました。

反省すべき点はただちに革め、より良くしていくことが強く求められた1年であったように感じます。

灰塚ダムでもいろいろと試行していることもありますが、本質的な一貫性を保ちつつ、より良く変化・進化していきたいと思っています。

今年一年、灰塚ダムの管理について、いろいろなご意見等をいただきありがとうございました。

「地域の一員」として、精一杯努めたつもりです。

至らぬ点も多々あったことと思いますが、ご理解、ご協力いただき本当にありがとうございました。

来年も、洪水調節、利水補給、環境保全、灰塚ダム・ハイヅカ湖を活かした地域振興で貢献できるように、元氣・勇氣・やる氣・根氣で灰塚ダム管理支所一同、頑張ります。

これからもどうぞよろしくお願いいたします。

良いお年をお迎え下さい。

◇ 問い合わせ等連絡先 ◇

国土交通省 三次河川国道事務所 灰塚ダム管理支所

支所長 今岡 俊和 (imaoka-t87mb@cgr.mlit.go.jp)

事務係長 片山 直行 (katayama-n87hd@cgr.mlit.go.jp)

〒729-4302 広島県三次市三良坂町仁賀1575

電話:0824-44-4360(代) FAX:0824-44-3544

